



# 釜族

創刊号

'73.2

『釜族』編集委員会

〈編集責任〉ケバラ 〈技術協力〉N&N.

《連絡先》大阪市西成区東田町44番地

☎(06)631-2383 (毎日昼12時~晩8時)

〈表紙〉トウちゃん

# ★ 目次 ★

発行にあたって	編集責任者	p. 1
ベルベットの柴	絵マミ子	p. 3
笠ヶ崎談議	誓九郎	p. 4
越冬はやらにゃあかん	春本健吉	p. 8
我々に新しい歴史を	森本弘	p. 9
笠ヶ崎と言う名	労働者	p. 10
飯場脱走記・(上)	労働者	p. 12
我々は自由人だ	殿谷一行	p. 18
苦悶	山本明	p. 19
進め、わが兄弟!	アル部・荒・乱暴	p. 20
詩	細川	p. 21
聖子より	山田	p. 21
地球は丸い 我々は自由人だ	太陽になりたい男	p. 22
月の満ち欠け	赤目十三郎	p. 25
健康を守る / ロメモ	医療を考える会	p. 27
編集後記	「毛」	p. 28

第2号の「げんこう」をみんなで書いて集中せよ! 毛腹

# 一 幾刊にあたらうて —

金ヶ崎労働者の顔に染つもの悲しきものなりけり。され  
た表情は、重なる生活と年月の暗く、重く鎖つてな  
がれてひきまわつて肌は赤黒く、年月のふけて思ひ  
のは、エチルアルコールと木をまぜた酒に、ニコ  
チンや、それに加えて入舞ひならざる社会の矛盾  
を全身に浴び、生かぬがら持つてこゝろ強じりな体  
のふしぎしにたゞ思ふ奥に燃つ塊をまじゐるたじろ  
ゐる。

金で歌われこきた詩にこそものは、生かす事への  
悔恨と、閉込のたゞ者々に対するその身をたけたま  
なまじいばなりの怨念が複雑に混り合つて流される。  
例せば、金ヶ崎人情といふ歌がある。歌の最後に  
「こゝは天国金ヶ崎」と二回くり返され誰かが、天  
国金ヶ崎に、金ヶ崎の人情をみる。昔むじみの友  
人とひきまわつて合つて路上にすわつて酒をくみ  
たわつて語り合つ、そのまじりたなとどま  
く人の輪がまじ、酒盛は金全体を奇声と涙であお

つす。みななの汗と土にまみれた裸体が世にたに  
へばいつき金の「動を止し」聞へ。

金ヶ崎人情は現在社会のマンエンした疎外感、管  
理機構に反逆している。

明日を約束されず。権力者の急に働かなくては  
食つていけない。しかも弱者を守るはずの法律で

国家権力はあくなき強さをくりかえしてくる。や  
うは社会のどこに差別と偏見、同情という人間意

識の最もまたならしい部分でぬりかためて閉じ込  
めつてする……。か、見ていろ。閉じ込められた

る裡たらのうのきは、その壁を相ととらわつた  
り暴動となつて市民社会全体に反乱を記すまじろ。

金ヶ崎で生かすことへの悔恨はとりも直さず、社  
会にす者共への懐疑であり、社会に対する挑戦であ  
る。

金ヶ崎で涙と汗にまみれながら働いて来た者が、  
まき出しの暴力を背にカウンターを思つたわこつて来



させつは赤川のハンカラス  
人混みの中で だれを待つ  
新世界あたりでなじみの顔  
旅先駅の構内で

出合つてしまつたおぼはんは

問は

押しつめられて放たれず

ただ沈降の拡散

あたしを男と腕を組み

厭更街へホテル探し

ああ、淫走、、、

女を夢う咽がらる。

女はうまみの肉、うぶなはあどと

秀らされる、、、

だからと

一二の世相は解れぬばならぬと

焦れは羨望の熱情

あたしを深すホロボロのなげき。

絵 ママの手

## 釜ヶ崎談議

——店に来た者——

私は一番横な時下生れましたね。丁度学制が交つ  
て中学も出られなくてね。兄弟の中で私だけなんぞ  
です。それが私の人生が落ちこゆくさっかけなんぞ  
しようね。私は、た製方左衛門人です。ま、社  
会党より毛左衛門か、、、。と二つが私が一人な  
生活をしているのですごく嫌がるのです。あつと  
前に大げんかしてね。それ以来絶交したいなもんで  
す。その時に、私は言つてや、たのですよ、お前  
らに俺の気持がわかるか、とね。

(4)

面成てアニコしてみんと俺の気持がわかるか、と  
ね。□じゃやれ、革命、だの「階級斗争」だのと  
いながら、めしらの生活とか、気持とか、全然分つ  
てないし、アニコを理解しようとする人です。ま、  
すまんね。今日は酒を飲んぶるから、ぐちばっか  
り言つて。ふも、ニニへ来たニニは、私もひとか  
たね。狸馬はやるし、パチニコはするし、金は全然  
残らないし。、、、。さもふと考えますよ。何のた

めに働いているのが、これね。十日も一生けん命働いて金をためても、競馬でパーなんですから、考えますよ。そりゃ、時々勝つことはあつても、どうせそんな金は残りやしないんです。その日のうちにパーって使つてしまふんです。それを考えてからは、パキニコもしませんね。それに考えて見なさいよ。ゆしらは手配師と斗つてるでしょつ。そればかりでは競馬でノミ屋なんか肥らせてるんじ、一体何のために、手配師と斗つてるんだらうてね。競馬なんかやつても、金は尽くなるよ、ヤーさんが肥るんじやどうしようもないんです。ゆきにりかなきゃね。私も年ですから、あんまり無理できないんですよ。毎日、斗争じゃ体が持ちません。これからできるだけ斗争に参加しますよ。ごめんね。金がなく、ちやね。今日は、酒飲んでもらば、かり直かせますまんね。まあ頑張つて下さい。

— オンボロ食堂の女主人 —

今日は、朝からホリ公が多しね。難しーニとはめ

からんけど、国際反戦デーとからしりね。まあ、暴れんきや暴れりゃいいんです。ついでにうちの家も二れしてくりゃいいんです。オンボロだから一発だね。そしたら、又飛田に戻るだけだね。私はね、せつかく更生して飛田から出たんだけど……。ま、いいよ、また飛田にでも戻ろうかね。

— 現場にて —

俺はね、四十の時、女房に死なれてからパキニコ始めたんや、もう六十越してるから、二十年以上やつてるな。だから、釜崎の昔から知ってるね。

そうやね。むかし土方、ちうたら、朝鮮人奴やるもんやつたな。多かつたなあ。親方日本人で、朝鮮人使つてやつてたんやなあ。今は、親方に朝鮮人が多しね。親方朝鮮人で、日本人使つたやな。まあかんぼつたんやろな。確かに、朝鮮人は金に汚しね。そやけど、日本人の方がもっと汚しね。

しかし、今のパキニコは昔に比べりゃ五倍も六倍も楽だしね。仕事も平、ときつかったと、休けいなん

のたぬ。俺が来た頃は、手取り四百五十円位に  
なつた。それを百円でメキシコ會社の服で買  
てた。言つた通り、そのうちに、ハナシ  
でも二、三回やつた。もうはたまにバーチ。飯場  
も、今じゃ十日の予約で行つて十日分もさえる  
けど、昔は、半月の予約で、一ヶ月の予約で  
一週間に一回の一回、半分の予約で、一日  
は予約にめづりの田代めつた。は、言つたらさ  
り十日分もさえるた。ええと、言つた。な。

「は、俺にやつた。でも、二、三に陥らなうけ  
れへんで。昔は時は、さうやうさうさうでも、飲ん  
でも、別に金を残したでも、まあ、さうさうな  
……、中々、年をとると、さうさうさうさうさうさう  
に、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
の親類のことも出世するのは、一、二のり、さうさう  
俺れの知つて、取で新方になつた。たのなあのけど、五  
年間、油もタバコもさうさうさうさうさうさうさう  
つてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

「さうさう。あんなは昔、さうさうさうさうさうさうさう  
は、昔、サマンロは、さうさうさうさうさうさうさうさう  
は、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
わつた。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
命は昔に比、リヤマンロも強くなつた。五倍も六倍  
も、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
た。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
我らは、マンロに、さうさうさうさうさうさうさうさう  
場になつて、さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
気がなつて、さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
親類のことも、さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
て、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
人、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
昔、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

(6)

のではな、そのことを「あや、ハナシ」さうさうさ  
か、さうさうに、大部分は、気が、さうさうさうさうさ

資本主義社会は、リジョアジー、資本家、支配者  
「さうさう」リジョアジーも、その日の生活、明日の  
ジョアジー、或は、リジョアジーとして、さうさうさ  
産して、さうさう。リジョアジーは、仲間との競争に、敗北  
すれば、リジョアジー、アートの、競争する。さうさうさ  
ロレタリ、アートの、困窮、悲慘から、脱出した、さ  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
と、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
化、イデオロギー、より、抑圧者、側へ、移行しよう、と  
る。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
を、分断し、相対的に、抑圧して、さうさうさ。そして、大部  
は、欲求を、満たされ、自己に、敗北して、さうさう。これは、ブル  
ジョアジーの、陰謀である。さうさうさ。勝利は、幻想で、さ  
な。

しかし、我々は、さうさうさうさうさうさうさうさ  
マジの、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
彼が、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

我々は、自身を、抑圧者として、許化させる。ある、は  
自身で、困難に、固定化させる。ある、は、さうさうさ  
イデオロギーを、拒絶して、これとも、さうさう。我々は、敵と  
は、異質な、文化、イデオロギーを、造り出し、我々自  
身の、又、全ての、被抑圧、人民の、解放を、勝ち、取らねば、な  
らな。勿論、敵は、権力、擁護、あり、物質的にも、敵  
な、また、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
とも、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
を、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
れる、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
も、さうさうさ。

さうさうさ。あんなは、昔、さうさうさうさうさうさ  
は、昔、サマンロは、さうさうさうさうさうさうさ  
は、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
わつた。さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
命は昔に比、リヤマンロも強くなつた。五倍も六倍  
も、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
た。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
我らは、マンロに、さうさうさうさうさうさ  
場になつて、さうさうさうさうさうさうさ  
気がなつて、さうさうさうさうさうさうさ  
親類のことも、さうさうさうさうさうさ  
て、さうさうさうさうさうさうさうさ  
人、さうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ  
昔、さうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ

我々の、勝利的、進軍の、さうさうさ  
そして、さうさうさ。  
労働者の、団結、さうさうさ。  
(七)